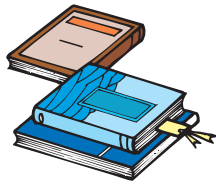


ほんの森

図書館 ☎84-3311



図書館休館日

4月1日(火)

毎週月曜日

日曜映画会

『トムとジェリー ドルーピーといっしょ④』

と き 3月16日(日)

午前10時・午後2時

上映時間 53分

ところ 2階ハイビジョンホール

定員 各回 先着100名

※整理券は不要です



金曜映画会

『古都』

と き 3月21日(金)

午後2時から

上映時間 2時間6分

ところ 2階ハイビジョンホール

定員 先着100名

※整理券は不要です



文芸

◆俳句

古の御料車臨場冬薔薇

浅野 茂子

魯山人器に盛りし冬の彩

池田 逸子

息かけて磨く手鏡年新た

伊藤 敬子

春寒や夫の寢息に胸熱し

今関満喜子

水仙の香り誘はれ山登る

魚地 照子

旅立ちやそれぞれの春抱きつつ

江森 悦子

臘梅や日の透く香り冠木門

川島 孝夫

豆まきの日なれどなぜに雪が降る

桑名 大行

初雪の鷺毛の様に降りにけり

向後 寛

雪玉を受けし児の顔日の笑ふ

越川せつ子

春光や水呑む中の黒き瞳を

越川 義則

寒中や九谷焼にて花開く

小松 藤男

息災に齡重ねて七日粥

佐瀬 輝夫

立ち枯れしままに冬木の沼の中
玉虫 栗扇

春光や夕べの灯かげ映りいて
夜のとばりの村の家々
越川 義則

光あび水車廻りて春の水

戸村 静華

還暦の父へと届く春の花

布施 和代

鬼やらひ香炉の灰もならしをく

丸山 照美

風紋流す名のみの春の浜の風

山口 一秋

花ハッ手館の如き四脚門

渡部 和秋

◆短歌

雪の朝犬は散歩で駆けまわり
古い格言思ひ出すなり
鈴木 益郎

臘梅の香り立つ傍に友と吾
刻を忘れて話し込みあつ
鈴木まさ子

低気圧荒れて凍てつく北の地の
受験の孫よすこやかにあれ
高梨 キヨ

離れ住む娘等は老い母氣遣ふか
時かまはずに電話かけくる
吉岡 信子

柔かき春の光の降りそそぐ
縁に憩えり午後のひととき
土屋 好

寂しいと思ひし時は遠慮なく
泊りに来よと妹の言ふ
田崎 尚美

雨戸繰れば初雪淡く積りあて
しばしの景に寒さ忘るる
安田マサ子

雨粒を揺らし目白の止まりある
後追ひ次の一羽も飛びく
押尾 輝子

場を求めむれ鳥暫し憩ふ枝
風に吹かれて共に揺れおり
伊藤 定男

九十年直に生きたる義弟の
菩薩思はず終のみ面
齊藤つね子

霜深き年の初めの庭に咲く
臘梅の黄冴えてすがしも
平山 芳子

精霊も黄に染まりあむと思ひつつ
いてふの落葉掃きてゆくなり
八角 三枝

門の上のシーサーの頭にも雪は降り
飾り置かれてにが笑ひせり
西山満里子

得をせしごとく思ひす踏切を
渡りし途端警報器鳴る
佐瀬 初音

門先にいつも鉢花飾る家
オキザリス咲く正月今は
池田 春江

指先の癖の痛さをひたに耐へ
食事のあとの器を洗ふ
永藤 滋